

第15回 京都御苑ずきの御近所さん

廬山寺管長 町田 泰宣 様



廬山寺が紫式部ゆかりの地にあるのは、
何かの御縁でしょうか？

御縁となるとおおきまち正親町天皇ですね。織田信長の比叡山の焼き討ちの時に、正親町天皇が「廬山寺は律家で戒律を守っている寺であるから焼くな」と言って明智光秀に手紙を渡しました。明智光秀も織田信長に「廬山寺を焼くな」と伝えました。その結果、廬山寺は焼き討ちから逃れることができました。その古文書が重要文化財として残っています。

紫式部とはあまり繋がりが無いと思うのですが、ここへ移ってきたのは天正元（1573）年です。廬山寺がこの場所に選ばれた理由は、御所の東というのが、ものすごくいい場所だからです。要するに、御所から鴨川までの東側というのは、お公家さんたちが住んでおられたので、すごく栄えた場所です。西の方は湿気が多くて、住むには適さないというので、こちらへ移されたんだと思います。もともと廬山寺は船岡山のところにありました。今も通りに「廬山寺通」という名前が残っています。船岡山からここへ移されたのですが、移された場所にたまたま昔、紫式部が住んでいたということですね。京都はお寺が移ってきた場所に、昔の有名な方が住んでいたことが多いですよ。

廬山寺の紹介をして頂けますか。HPの最初のページに鬼が現れますが、どうしてですか？

シンボルではないのですが、元三大師（良源）^{*1}が護摩焚きの祈禱をされていた時に、鬼が現れて護摩の邪魔をしたと言われています。鬼というのは、本当はこんな形ではなく、人間の心です。三毒、すなわち、とん貪・しん瞋・ち痴と言うのですが、自己の欲するものに執着して飽くことを知らない「とんよく貪欲」、怒りや恨む「しんい瞋恚」、そして人を中傷する「ぐち愚痴」です。この3つがあるから人間は苦しむんやと。それを外せれば苦しまないと言うて、もっと分かりやすくしようと鬼の形にしたのが江戸時代です。それまでは面1つでした。その面が「降魔面」と言うて京都府下で1番古い面と言われています。いろいろな折に御開帳していたのですが、あまりにも古いので、周りからあまり出さない方がいいんじゃないかと言われて、昨年複製をつくりました。今までは、節分の行列の中へ持って歩いていたのですが、現在はそれを止めて、複製の新しい面を使い、古い面は大師堂の中に安置しています。

廬山寺は、洛陽三十三所観音の三十二番札所になっています。お祀りしている如意輪観音菩薩は元々金山天王寺の本尊でした。廬山寺には末寺があり、その末寺の1つが金山天王寺です。幕末に経済事情などの問題で維持

できなくなったので、御本尊を廬山寺へ持ってきたんです。如意輪観音菩薩は、ものすごく大きいんですよ。最初は、本堂の入口に観音堂が建っていたんです。でも、仮堂だったものですぐに潰れてしまいました。新たに作るの大変やという時に、京都国立博物館ができたんです。それで京都国立博物館に、如意輪観音菩薩を預かってもらえませんかとお願ひしましたら、鎌倉時代につくられた重要文化財ですので、快諾してくださいました。京都国立博物館に行かれましたら、大きい仏像が2つあるのですが、その1つが廬山寺の如意輪観音菩薩です。廬山寺には御前立ちのみ、元三大師堂内に安置しています。

町田管長様は、日本南画院会長でもあられます。水墨画を描き始めて50年。これまで描かれた絵画は、時代や社会を反映されているのでしょうか？また、これから描きたいテーマなどおありでしたらお聞かせください。

絵というものは最終的な結果です。仕上がった後は、描いた絵がどう思われるかどうか。でもそれ以前に大事なことは、何を描くかということです。何を描くかとなると、私は海外が多いです。海外の方が焦点を絞りやすいからです。海外に行く場合、「ここへ行きたい」と決めて、同じ場所に何日も滞在します。事前に行きたいところ、行きたい場所は決めてから行きます。スケッチも「ここやったらどうかな」など、いろんなことを調べて下準備をしてから行きます。でも、行ってみないと良いか悪いか分からない。行ってみて良ければそこにずっと居ます。

漠然と行って、「ああここいいな」と思う場所も意外とあります。何も考えずに行った場所が良かったりもする。いいなと思った場所では一生懸命スケッチします。スケッチは人と行ったら駄目です。好みが違うので、1人で行くのが一番です。だからといって一人旅は高くつくので、団体で行って、現地で解散する。集合時間まではどこでも行って来ていいよ、というスケッチの仕方です。そうすればみんな自由ですし、横に人が居るとスケッチするのに煩わしい時があるでしょ。1人が一番いいんですよ。

旅行として面白かったのはエジプトです。エジプトでピラミッドに登って、警察に怒られて、罰金を払えって言われたことがあります。エジプトも描きましたけど、年齢によって描きたい場所はものすごく変わるんですね。今は鴨川です。鴨川をじっくり見て、水と話をしています。水を見ていたら面白い。水は、夜は白く見えて、朝は暗いんです。それを見て、今は一生懸命鴨川を描いています。今年の南画院展の作品は、鴨川の朝に鴨が飛んでいくところを描きました。鴨はよく泳いでいますが、飛んでいるところは珍しかったので。

これから描きたいテーマも鴨川です。鴨川の水と空を中心に描きたいと思っています。鴨川は毎日散歩に行くんです。散歩を理由にして鴨川を見ています。鴨川にじっくり座っていると毎日毎日景色が違いますね。違うとまた嬉しい。いろいろな鳥も来ます。散歩の時はイメージをしながら歩いているのでスケッチブックを持っています。絵のバックに比叡山を描こうと思って、雪が降っている日の朝早くに下絵を描いていたたら、全然絵にならなかった。比叡山が綺麗すぎるので気持ちが入らへんです。比叡山をちょっと描いたのはあるのですが、全部描いたら絵になりませんね。北の方だけ少し描くとまたいいのかな、などいろいろ考えています。何度も何度も同じところを見て、そのうちにイメージが固まってくるんです。

町田様の思い出の中で、京都御苑にまつわるものはありますか？

一番好きなのは仙洞御所です。建物は無いけど、庭が綺麗でしょ。御所はすごいなと思います。それと、桂離宮よりも修学院離宮の方が好きなんです。私は修学院離宮の近くで生まれて、小さい時はそこで育っているので、よりそう思ったのかも知れません。親父が廬山寺の後継ぎでしたので、私も廬山寺へ入ってきて、子どもの時はこちら一帯で悪いことばかりしていました。あの当時はよく仙洞御所と大宮御所にわざとボールを投げ込んで、立っていた担当官に、「すみません、ボールが入ったんですけど」と言うと、「いいよ、ボール取っておいで」と言われて、中がどんな様子なのか友達と偵察に行っていました。小学生

の時でしたので、担当官も安心して中に入れてくれました。今は手入れが行き届いているので草は生えていませんが、当時は草が生えていたのでボールを探すのも大変でした。それでも子どもなりに仙洞御所と大宮御所は綺麗だなあと思っていました。そんな思い出があります。

また、京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

御所には門がいろいろありますが、私は建春門が好きです。見て綺麗な場所は近衛池の桜です。あれはすごいですね。毎年楽しみなんです。円山公園の桜よりも近衛の桜の方がずっといいです。しだれ桜がすばらしい。京都一だと思えます。いつの時か、天皇皇后両陛下が急に見に行くと申されて、職員の方もびっくりされていたそうですね。これからは桜がいい時期ですね。梅や桃の花も綺麗ですが、しだれ桜は爽やかに美しい。1人の男の子が毎年しだれ桜をスケッチしているんです。私の友達の絵描きですが、一生懸命描いています。御所は桜が咲き始めた頃が一番いいと思います。

それから、歴史的に見れば中山邸跡がいいと思えます。明治天皇のお生まれになった場所です。私が聞いた中で面白い話は、明治天皇の御生母の中山慶子さんが明治天皇を産んだと分かった途端に待遇が変わったという話です。中山家はうちの菩提寺で、檀家さんです。代々古いところですから、ようお越しになられます。いま御所へ行ったら、中山邸跡の明治天皇のお生まれになった場所にある祐ノ井がええ思い出でしょうし、そういう歴史のある建物なので貴重です。あとは閑院宮邸跡が好きです。すぐ近くにある有栖川宮旧邸と比較してもやはり閑院宮邸跡の方がすごいいと思います。また、そういうところで御苑の説明を聞けたりする。そういった場所が御所の中にあるからすごいですね。

京都御苑の今後について、御意見などございましたら自由にお聞かせください。

修学旅行生が清和院御門前で御苑に入れるか分からず迷っているのをよく見ます。御所は入れないことは知っているから御苑の中も入れないと思いついでいる。一般

の人には京都御苑も京都御所も一緒なんです。京都御所は警備がいて、一般公開されていない限り急には入れませんし、止められますよね。一般の人や地方から来た人にこれが「御苑」でこれが「御所」っていうても分からない。ですから、御苑は中へ入れますよと言ってあげたらいい。京都御苑はどんなところなんですかと聞かれたら、昔天皇陛下がおられたとこやと言ってあげたい。しかし、住んでたところやとは言うてませんと。分かりやすく言ってあげた方がいいですよ。京都御苑が自由に入れるところと分かって、もっと人が来たらいいと思います。そうでないとあんな立派なところですので勿体ない。もっと言ってもらって、一般の人にもっと開放的なイメージを創ってあげたほうがいいです。それにはやっぱり表の看板が必要です。「御自由にお入りください」とか表示してね。一時、京都御苑の門のところに看板があつたりなかつたりした時がありましたでしょ。いいものをつくらはったなと思ったら、今行ったらあらへんし、どないしはったのかなと思っていました。もっともっと一般の人が入れるようにしないと勿体ないです。みんなが分かるようにしてあげたらいいと思います。京都御苑は門が閉まりませんから自由に入れますよ、とアピールして欲しいです。

2017年3月2日インタビュー

聞き手：田村省二、山本昌世

○町田 泰宣さまプロフィール○ 1943年京都市生まれ。京都外国語大学英米語学科卒業。佛教大学仏教学専攻科修了。天台圓浄宗大本山廬山寺管長。水墨画家として川端皐白に師事。85年日本南画院展第25回記念展賞受賞。88年日本南画院展秋邸賞受賞。89年日本南画院展文部大臣賞受賞。上野の森美術館大賞展などへの入賞ほか、中国、ロシア、フランスなど国内外の展覧会へ出品を重ねる。また、渋谷東急本店、高島屋などを中心に個展開催も行っている。公益社団法人日本南画院会長、京都日本画家協会会員、一般社団法人紫式部顕彰会会長。画集に『墨と響きあう：町田泰宣画集』（思文閣出版）がある。

注釈

※ 1 平安中期の天台宗の僧。元三大師・角大師と称される。近江の人。横川で修業し、天台座主となり、藤原師輔らの援助を受けて比叡山の復興に努め、天台宗中興の祖。諡号は慈恵大師。(912～985)